

11/3
五旗

原発再稼働計画を批判

福井 藤野議員迎え講演会

原発問題住民運動福井県連絡会は10月31日、日本共産党の藤野保史衆院議員を迎えて講演会を福井市内で開催し、約100人が参加しました。

臨時国会の年内召集を拒み、海外で原発を売り込んでいる態度や、東京電力福島第一原発事故前より原発への電源依存を強める再稼働計画を批判。電力を自由化しても原発をテコ入れして利権を保つし

かけをつくった問題も指摘しました。

国会で、福島事故の国会事故調査委員会も指摘した原発の集中立地に潜在する同時多発事故の危険性を質問し、原子力規制委員会の田中俊一委員長の「新しい炉をつくるときには十分に考慮されるべきかもしれない」との発言も引いて追及した経験などを紹介しました。

差し止め仮処分決定を生んだたかいの意義を強調。党の「戦争法廃止の国民連合政府」提案にふれ、「これが実現すれば、原発をめぐるたたかいの突破口も開かれる」とのべました。

そのうえで福井地裁の関西電力大飯原発3、4号機差し止め判決や同高浜3、4号機参加者から、原発交付金について、「再生可能エネルギーに振り向ければ、(エネルギー)転換できるのではないか」との質問が出され、藤野氏も「電気料金として払っている原発推進のお金を振り向ければいい」と答えました。